

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		・「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフをサポートします」という会社の理念のままです。 ・地域密着型の意義を全員で理解し、地域との関係性を強調した理念を作り上げていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		・上記理念を構築して申し送りやミーティング等の時に確認をして行く。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		・出来ていません。 ・理念を構築した上で、ご家族や地域の人々に理解してもらえように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		・日頃より近所の方々とは散歩等で行き逢うと挨拶を交わすようにしています。また年末にはカレンダーをお配りしたり、ホームでの大きなイベントにはポスターを配して参加も呼びかけました。 ・ホームの日頃の様子など定期的にお知らせするような回覧、あるいはチラシなどを配信して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		・毎年自治会の納涼盆踊り大会、文化祭、ふれあいサロン等に参加させていただいています。また地域の防災訓練、防犯講習にも職員が参加しています。 今までの活動を元に益々の地域との交流を広げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・特に取り組んでいる事例は有りません。</p>		<p>・人材育成のための実習生の受け入れなどは積極的に行ってはいるが、今後は地域に貢献という点で何が出来るか、掘り下げてゆきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・評価の実施の意義は概ね理解されていると思いますが、それを活かした具体的な改善には取り組まれてはいません。</p>		<p>・評価の結果を全員に周知し、改善に向けて検討し実践につなげて行きたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議で取り上げられた事は、その経過を報告し一つ一つ積み上げて行くようにしています。</p>		<p>・運営推進会議をサービスの質の向上の為のツールとして更に工夫を重ねて行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・現時点では実施出来ていません。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・昨年と今年で二名の方が保佐と成年後見の方が選任され実施されています。</p>		<p>・未だ、家庭の事情で中々関わる事が出来ず、いろいろな面で大変な思いをされておられるご家族もおられるので、これからも引きつずきこの制度の利点等を説明し、ご家族を側面から支援して行きたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・「高齢者虐待」のパンフレットを各ユニットに貼って虐待防止法に関心を持ってもらい、虐待が見過ごされぬよう注意を払い、防止に努めています。</p>		<p>・言葉遣い、言葉掛け等で時々心理的虐待と受け止められる事があるので、その都度あるいはミーティング等で改めて虐待防止に付いての意識を深めて行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約の際は、ご家族に丁寧に説明をして理解と納得を頂いています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ご利用者の意見、不満、苦情を管理者としては受け入れ易く働きかけているつもりですが、外部者へ表せる機会は不十分です。</p>		<p>・家族会や運営推進会議等を通して表せる様な機会を設けて行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・金銭管理に関しては毎月15日に決算書を各ご家族に郵送しています。また暮らしぶりや健康面などは3ヶ月に一度を目安にお手紙をお出ししています。ご家族の面会時にはその都度近況を報告しています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族の会がまだ発足したばかりですが、そのような機会を通じてホームに意見や要望を提供していただけるようにしています。また会社からも一年に一度ていご家族へのアンケートを実施しています。</p>		<p>・面会時などに気軽に伺える雰囲気を作って行く。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者として日頃からいつでも職員の意見や提案、悩み等が話せるように心掛け、運営者に提案すべき事や職員の訴えなど、その都度報告しています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・出来る限りその人のニーズに応えられるような勤務体制をと職員からの要望はありますが、残念ながら現状では叶えられません。せめて日勤帯の三人体制に努めています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・基本的には各ユニットの職員を固定化して馴染みの関係のケアを心掛けています。</p>		<p>・職員の移動や離職を最小限にするために、管理者として運営者側との話し合いを積極的に進めなければいけないと思っています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・以前は職員研修を定期的に行われていましたが、現時点ではそれを見直しているところです。外部への研修の働きかけは行っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業所の自主性に委ねていると思われま。埼玉県認知症高齢者グループホーム協議会への参加は呼びかけています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・取り組んでいるとは思えません。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・コンピテンシー評価を導入しています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でご本人と対面しアセスメントの実施を行い、現在の生活状況とご本人の状態の把握をしています。ご本人の楽しみや不安なこと、これから行っていきたいこと等をお聞きし、今後どう生かしていくかを考えています。		現在取り組んでいることを今後も実施し、ご本人が職員やホームを受け入れていただけるよう、最善の努力をしています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と対面する機会を設け、現在困っていることや不安なことをお聞きし、事業所としてどのように対応できるかを事前に話し合っています。		ご家族の現在までの苦労や経緯について、ご家族が話しやすい雰囲気を作りたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご家族が困っていることや今後どうしていききたいかをお聞きし、現時点でなにをすべきかを考えています。ご家族の思いに答えられるよう信頼関係を築きながら、利用者にとって今このサービスが必要かを職員間で話し合い実行しています。		可能な限り柔軟な対応が行えるよう職員間で話し合い、必要に応じて、市町村の窓口や他のサービスを利用していきたいと考えています。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得してからスムーズにサービスが利用出来るよう、入居に至るまでにお会いする機会を十分に設け、いち早く職員になじんでいただけるよう努力しています。ご本人の納得が得られない場合には、納得が得られるような説明を心がけています。		サービスの利用がご本人主体であることをもう一度再認識し、ご本人の安心と理解を大切にしたいと考えています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の思いや立場に立って、日々の喜怒哀楽を分かち合っていけるよう利用者と向き合っています。こちらからの一方的な介護ではなく、時には利用者から教えてもらいながら、その時その時に助け合って生活しています。		利用者は人生の先輩であるという考えをもう一度再認識し、そういった場面が多くもてるよう声かけをしていきたいと考えます。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にて利用者の現状をお伝えしています。お伝えすることで、利用者に対しての気づきに努めています。		ご本人を支えていくにはどうしたら良いかを今一度ご家族と考え、実施していきたいと考えます。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の生活背景を把握し、ご家族との関係を理解しようとしています。ご本人の日々の状況を報告、相談し、ご本人とご家族の関係が薄れてしまわないよう、ご本人とご家族間の関係の継続に努めています。		ご本人やご家族のお互いの思いを理解し、継続的な関係を持てるよう支援していきます。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間で関係が持て、談笑する時間や気の合う利用者同士で話が出来るよう、職員が間に入って調整役を行い、円滑な交流が出来るよう支援しています。		利用者と職員が一緒の時間をすごせるよう時間をつくり、密接な関係が築いていけるよう、少しでも多く利用者との関係が持てるようしていきたいと考えます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご本人やご家族の希望や必要に応じて、関係を継続していきけるよう努力しています。		他事業所へ移られた方にも、気軽に当事業所へ遊びにきていただけるよう、継続的な関係が築いていけるようにしていきたいと考えます。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者とは話す機会を設け、ご本人が何を考え希望しているかを、言葉や表情、しぐさ等で把握するように努力をしています。当初から出来ないと思えるのではなく、どうしたらご本人の希望に添えるのかを職員間で話し合い実施し、結果をもとによりよく生活していただけるよう支援しています。意思の疎通が困難な方にはご家族から情報を得るようにしています。		利用者の思いや、希望等を把握し実施したあと、ご本人はどう思っているのかを考え、一方的な支援にならないようにしていきたいと考えます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴を把握し、利用したあと情報収集に努めています。また、ご本人との会話の中で、ご本人の口から今までの生活歴をゆっくりお聞きできるよう、時間を設ける努力をしています。		今後も利用者やご家族の思い出や過去に触れるため十分にプライバシーの配慮していきたいと考えます。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中から、利用者が出来ることに着目し、利用者の全体像を把握出来るよう努力しています。		ご本人の出来ること、分かることを見つけ、利用者を総合的に見ていけるよう、努力していきたいと考えます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との関わりの中で、ご本人の考えや思いを聞き、ご家族や関係者、職員と話し合い介護計画に反映するようにしています。		定期的に職員間で意見交換し、ご本人視点での介護計画になるよう、今後も重要課題として行っていきます。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の情報を職員が確認し、利用者やご家族の要望を取り入れ、認定期間が終了する前に見直しをしています。		利用者の状態や希望と合っているかを確認し、臨機応変に介護計画を変更していけるようにしていきたいと考えます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて一日の利用者の状況や変化を記録し申し送りを行う等、利用者の日々の変化に気づけるようにしています。また、連絡ノートを活用し、勤務開始前の確認をしています。		利用者の状態変化を細かく記録するよう、今後も日々情報共有の徹底をしていきたいと考えます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や緊急受診、急な外出や外泊、他のサービスの利用等、ご家族の状況や要望に合わせて臨機応変に対応が出来るよう心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・本人の意向や必要性に応じて、運営推進会議の席上や地域の社会福祉協議会、公民館などに出向いて少しでも本人の意向に沿えるように出来る範囲で取り組んでいます。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域公民館で行う様々な行事には声をかけてもらえるように自治会長や民生委員、地域包括のかたにお願いし参加できるものには参加させて頂いている。出前寿司なども月一回行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・権利擁護等に関しては「日本社会福祉士会・ばあとなあ埼玉」の事務局のかたたちとともに協働させて頂いています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関以外にも、入居前にご本人の主治医となっているかかりつけ医での医療を継続して受けられるよう、ご家族と協力して通院介助を行ったり、往診に来ていただいたりと複数の医療機関と関係を結んでいます。		今後も利用者やご家族にとっての馴染みのかかりつけ医との連携を行い、利用者にとって必要な医療が受けられるよう支援していきます。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者やご家族、職員の話をよく聞いていただける協力医と連携をとっています。</p>		<p>認知症の専門医や認知症の方に対する医療に適切な指示や助言をしていただける医師を探し、今後も利用者に必要な医療を提供出来ればと考えます。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護にて週一回、顔なじみの看護師が訪問し、利用者の体調管理をおこなっています。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院による利用者の心身の低下やストレスの軽減を図るために、医師や看護師と話をする機会をもち、情報交換に努めています。また、入院時には医師や看護師へご本人に対する支援方法の情報を提供し、職員が出来る限り見舞うようにしています。ご家族とも情報交換を行い、退院に向けての支援を行えるよう連携をとる努力をしています。</p>		<p>入院が短期間になるよう、医師や看護師、ご家族と連絡を図り、スムーズな退院が出来るよう支援していきたく考えています。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時にはご家族に対して、ご本人が重度化した場合や終末期のあり方についての指針を示し、ご本人やご家族の意思も踏まえながら職員間で話し合う機会を設け、今後の方針としてどう行っていくか話し合っています。</p>		<p>・終末期に向けたケアはグループホーム協議会でできちっとした方向性は出来ていないと思います。ただこの時期に来て全ホーム的にきちんと取り組んでいかなくてはならない問題だと思っています。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・現時点では終末期に向けたケアに対して運営者側と検討中です。</p>		<p>・終末期に向けたケアはグループホーム協議会でできちっとした方向性は出来ていないと思います。ただこの時期に来て全ホーム的にきちんと取り組んでいかなくてはならない問題だと思っています。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前には利用者のご家族や関係者から十分な情報を収集し、ご本人にとっての環境の変化が最小限に抑えられるような対策を話し合いながら心身のダメージを防げるように努力しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の業務の中で利用者に対する言葉使いへの配慮、利用者の尊厳や権利を損なわないような声かけを行うようにしています。また、記録や個人ファイル等の保管には注意しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者個々に対しての声かけの方法や内容をその都度変たり、その人に合った声かけを行うようにしています。また、利用者自らが判断出来るように、職員が待つ姿勢を大切にしています。</p>	<p>今後も、職員間で話し合う機会を持ち、利用者個々に合った声かけの方法を把握して実践していきたいと考えます。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその日の心身の体調を把握し、ご本人にも直接聞いたりしながら、利用者個々に合った生活ペースを大切に出来るよう支援しています。また、利用者に職員側の都合やペースを気にすることなく、自由に生活していただけるよう配慮しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の身だしなみに配慮し、定期的に訪問理容を利用しています。</p>	<p>起床時はもちろんのこと、排泄後や入浴後の身だしなみにも気を配っていききたいと考えます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の食事に関する好き嫌いを把握し、楽しんで食事をしていただけるよう配慮しています。また、厨房からユニットまでの配膳車の移動等、利用者と共にしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居時には利用者が好む嗜好品を職員側で把握し、その時の体調に合わせて日常的に楽しんでいただけるよう支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェックが必要と思われる利用者に関し、利用者の排泄ペースを把握しています。排泄の失敗やおむつの使用を減らせてはしません。</p>		<p>アセスメントを行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう、職員間で話し合っています。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の心身の状態を把握し、その人に合ったタイミングで声かけを行い入浴誘導を行っています。また、入浴日等を決めず、入浴中は職員側の都合で入浴時間を短縮しないよう見守りや介助を行いながら、その人に合った入浴を楽しめるよう配慮しています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>居室内の室温や明るさ、寝具等を整え、利用者が安眠しやすい環境を作れるよう支援しています。またソファや椅子に座っての休息時には、そのまま休めるようタオルケットをかけたりと、ゆっくり休息していただけるような支援をしています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の状態を見極め、その方に合った役割を持つていただき、ホーム内で活躍できる場の提供を行っています。</p>		<p>まだまだ利用者によっては発揮できる力があると思いますので、その方の持つ力を最大限に活かせるような援助を行っています。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>トラブル回避のため、金銭は事業所でお預かりし金庫にて保管している方がほとんどです。ただし、一緒に買い物へ行った場合には、ご本人に財布を渡し、利用者の力量に応じて自分で買い物ができるような配慮をしています。また、利用者の状態に応じてご本人が所持している方もいます。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候の良い日などを利用して、手紙の投函へ行ったり、利用者の希望に沿って外出できるような援助を行っています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節の行事等で外出してはいますが、個々での対応は不十分だと思っています。</p>		<p>今後、利用者個々の支援について、職員間で話し合っていきたいと思っています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があった場合には、電話をかけられるよう支援しています。また、ご家族から電話がかかってきた場合にも取り次ぐようにし、ゆっくりと電話ができるような支援も行っていきます。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	事業所として面会時間は決めています。それ以外の時間帯でも可能であるとお伝えしています。利用者となじみの方たちが気兼ねなく過ごせるよう、落ち着いて過ごせる場所を提供する等の配慮もしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としても身体拘束廃止推進委員会を設置しており、法人全体としての取り組みを行っている。また、その要綱の内容も職員全員が把握しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの入り口は施錠しています。施錠しないことでのリスクが高く、実施できていません。		職員間で話し合い、今後の対応を考えていきます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、事故等がないよう安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者個々の力量に応じて、時には刃物や薬品等の危険性が高いものについては事業所内でお預かりし、個別に応じた対応をしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関しては、事故報告書およびヒヤリハット報告書にて報告すると共に、その内容は職員同士で共有し、事故原因の検証と再発防止に努めています。また、報告書は本部へもFAXし、法人全体として共通の認識として捉えています。		今後、事故防止のための知識を学ぶために勉強会を開催し、利用者個々に応じた対応策を考えていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や急変時等に関して、対応マニュアルおよび緊急連絡対応表を作成し、掲示するなどして周知徹底すると共に、職員が突然の状況に置かれた場合でも対応できるようにしています。		今後、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を行っていきけるよう、内外の勉強会に参加し学んでいけるよう行っていきます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署を交えての避難訓練を実施できていませんでした。		消防署の協力の下で行われる避難訓練の実施を計画中です。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族へは入居時のリスク説明と入居中に状態が低下してきた場合のリスク説明を行うようにしています。また、ケアプランに反映させてリスク回避にも努めるように心がけています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者個々の状況を一番把握しているのは職員であり、体調変化をいち早く察知できるよう、日々の観察やバイタルチェックおよび職員同士の情報交換にてその日の体調を把握できるように努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬等について調べ学ぶ努力をしています。副作用等についても理解し、それに応じて食事等を変更するなど対応しています。利用者がきちんと服薬出来るよう、日付や時間管理等の徹底を行っています。		今後も、服薬に関する勉強会を行ったり、職員自ら学ぶようにしていきたいと考えます。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬や下剤を服用しているご入居者は、チェック表を活用しながら排便間隔を把握し、最終排便がいつなのかの確認をしています。		今後も、便秘の予防や対応のための運動や対応策を考えていきます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアと肺炎の関係性を意識しながら、ご入居者に応じて口腔ケアの声かけや誘導を行い、日々の口腔内の清潔保持に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の嗜好品に関しては入居時に確認をしています。日々の食事では食事摂取量の記録を行い、入居者個々の食事量を把握しています。食事中は楽しく食べられるような雰囲気作りを心がけ、声かけや誘導、介助を行いながら支援しており、水分に関しても脱水にならないよう、定期的または利用者からの希望に応じて水分摂取を心がけています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人として作成した感染症対応マニュアルがあり、事業所内で起こる可能性のある感染症に対するの予防および対応ができるように努めています。また、各職員への周知徹底も行っていきます。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理を担当しているスタッフへまかせていますが、ユニットにある冷蔵庫は、スタッフが定期的に清掃するよう心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家の改造型ではないので、多少の施設的な雰囲気はありますが、玄関周りに花を生けたりプランターを置いたり、水槽を置いたりして入りやすい配慮をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にて、季節に合った飾り物や花を飾るなどして、建物の中にも季節を感じていただける配慮をしています。季節ごとに一般の家庭でもやるような行事も行っています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に設置されているベンチ、居間にはソファを設置したり等、一人や少数でも過ごしたい時に居場所が確保できるような配慮をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、いくつかの空室がある場合にはご自分で好きな居室を選択していただき、日頃からお本人が使い慣れているものをなるべく多く持参していただくように勧めています。また、写真や装飾品といったご本人にとって思い出深い小物類についても自由に飾っていただけるような配慮をしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有空間や居室等24時間換気を行い、常に空気の循環に努めています。また、室内の温度調節は職員の体感温度ではなく、利用者にとって過ごしやすい室温かどうかの配慮を心がけています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんのこと、廊下・トイレ・浴室等への手すりの設置、ドアの引き戸、玄関周りのスロープ等、利用者使いやすい安全な住環境を提供し、できるだけ自立した生活ができるような配慮をしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の能力を見極め、その力量に応じて声かけや誘導、できない部分のみの援助を行い、利用者が自ら行っているような環境づくりに努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の横にある畑に、季節の野菜や果物等を植え、その成長していく過程を視覚や嗅覚で楽しみ、実ったときにはみんな収穫して楽しんでいます。また、敷地内には洗濯物を干すスペースとして物干し台を確保し、スタッフと共に気軽に洗濯物が干せたり取り込めたりできる環境を作っています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ご利用者、ご家族双方に安心して頂けるような支援に努め、極力ご家族とのコミュニケーションをより多くとれるように努めてます。・ご利用者が毎日、笑顔で穏やかに過ごせるよう、明るく楽しい雰囲気作りに努めています。・その人らしさを損なわないように、お一人お一人の個性を大切にしながらケアをしています。・ご利用者のニーズに合わせた社会資源を提供できるように努めてます。